

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和2年2月14日

事業所名 キッズスクールメグシィ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			小集団で活動できるスペースや落ち着いた療育の出来る個室を活動内容に合わせて有効に活用しています。
	2	職員の配置数は適切である	○			適切な指導ができるように職員を配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		室内はバリアフリーですが、玄関やトイレには段差があります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			他教室と日々の振り返りを共有し、PDCAサイクル活用のための勉強会も実施しています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		送迎時などに保護者へのヒヤリングを実施し意向の把握に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			結果だけではなく、改善策や将来的なビジョンについても公開するように心がけています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	連携機関から総合的な評価をいただく機会がありますが、今後教室ごとの評価をいただく機会を設けるよう努めます。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			県内外の研修会への参加や社内研修会なども実施しています。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			計画に客観性を持たせられるよう、他教室との意見交換を行っています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			利用者様の特性把握や能力に関する情報を得るため有効活用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			教室内チームの他他教室とも連携を取り、行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			PDCAを活用して、固定化しないよう工夫し取り組んでいます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇には、買い物やおやつ作りなどの活動も取り入れ、課題に取り組んでいます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動においても各自の特性や個性に寄り添ったサービスを実施しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前にはミーティングを行い、支援内容や役割分担についての確認を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後には記録に残し、職員間での共有を徹底しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援後には、支援内容を記録し、各自の課題の検証や改善を行っています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングを行い、必要時にはその都度連携を取り、計画の見直しを行えるようにしています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			複数のガイドラインの主要ポイントを反映しながら、日々の支援を行っています。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		役員と担当者がペアになり、少なくとも2名以上の職員で参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者様にもご協力いただき、学校との情報共有や連絡調整を行っています。また、小さな変化も共有できるように学校との関係性を構築しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在利用はありませんが、必要時連携の取れる体制を整えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相互理解するするために連携を取り、情報共有に努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	現在実績はありませんが、必要時には情報共有していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じ意見交換を行っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	実績はありませんが他教室との合同イベント等での交流は行っています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	研修会への参加はしていますが、今後協議会との連携も行っていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に情報交換を行っています。また、保護者会等も定期的に開催しています。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		困りごとの相談の他、家庭内でも取り組める療育へのアドバイスも行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		パンフレットやホームページ等で詳細を公開しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		父母どちらかに一方的に肩入れすることのないように、総合的な情報をもとに客観的な視点で提言しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者情報交換会を定期的に開催しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった際には苦情担当者が迅速に対応し、内容は職員間でも共有し改善及び再発防止に努めています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一度の教室だよりを発行し、日々の活動内容の報告や予定等の情報を発信しています。
	35	個人情報に十分注意している	○		研修会等も行い、個人情報の取り扱いには十分注意しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		イラストや写真、文字など利用児の特性に合わせて、意思疎通や情報伝達が行えるようにしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在実績はありませんが、今後十分配慮し検討していきたいです。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員間での内容通知はしていますが、保護者への周知は不十分であるので、今後対応の改善が必要と思われます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に一度の防災訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会への参加で知識を深め、社内でチームを作り対応しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	様々なケースや時代背景に沿ったガイドラインを策定できるよう、PTCAを繰り返しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報に基づき、個別に対応しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を職員で共有し、環境の改善などを行っています。